会員の皆様にお聞きしました

新南陽の景況感

調査概要

調査対象期間　2023年4月～6月（現状）における景況感と、2023年7月～9月（今後）における景況見通し

調査対象　新南陽地域の企業62社

調査方法　商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目　「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

業況DIは若干回復したが依然としてマイナス、長期化する人手不足や物価高で慎重な見方。先行き見通しの業況DIは横ばい売上高DI、採算DIは悪化に転じており、慎重な見方が続いている。

新南陽地域の2023年4月～6月期の業況DIの全産業合計値は▲40.7%となり、前期調査（1月～3月期）よりもマイナス幅が19.3ポイント縮小（改善）した。全国の「第172回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況DIのマイナス幅も縮小（改善）している。

新南陽地域の今後3カ月先行き見通しも、全産業合計値のマイナス幅は若干縮小（改善）する見通しとなっている。全国の今後3カ月の先行き見通し「第172回中小企業景況調査」の全産業合計値も、マイナス幅は縮小（改善）する見通しとなっている。

全国的には建設業・製造業の設備投資が堅調に推移する一方で、人材不足に伴う受注機会の損失、物価高による買い控えの継続、原材料・エネルギー高騰や人材確保に向けた賃上げ等のコスト増加がコロナ禍からの挽回消費に一服感が見られ、中小企業の業況は悪化した。（商工会議所LOBO調査6月）

【卸・小売業】

前回の調査に比べて売上高DI、採算DI、仕入単価DIのマイナス幅は縮小（改善）している。業況DI、資金繰りDIは依然として▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しでは、売上高DI、採算DI、設備DIのマイナス幅が拡大（悪化）する見込み。

コロナ5類になって個人消費等の回復が見られるようになったと報告有り。

【製造業】

業況DI、売上高DI、採算DI、仕入単価DIは前回に比べてマイナス幅が拡大（悪化）している。仕入単価DIは悪化して、資金繰りDIは前回に引き続き▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しは、業況DI、売上高DI、採算DI、仕入単価DI、資金繰りDIは▲100%（全事業者が悪いと回答）。需要の低迷とコスト上昇で利益が出ないと報告有り。

【サービス業】

前回の調査に比べて業況DI、売上高DI、採算DIのマイナス幅は縮小（改善）している。仕入単価DI、資金繰りDIは前回に引き続き▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しでは、業況DI、売上高DI、採算DIのマイナス幅がさらに縮小（改善）およびプラスに転じる込み。

物価高の影響が来客を減少させているとの報告有り。

【飲食・宿泊業】

前回の調査に比べて売上高DIのみマイナス幅が拡大（悪化）している。マイナス幅が縮小（改善）した項目は無い。

今後3カ月の先行き見通しでは、マイナス幅が拡大（悪化）する項目はなく、業況DI、売上高DI、採算DI、従業員DIのマイナス幅が縮小（改善）する見込み。

仕入単価の上昇、人件費の上昇等の採算悪化の声とイベント復帰で売上高上昇への期待の報告有。

監修・分析／マサエンジニアリング 代表
中小企業診断士　佐伯　昌之　氏

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI＝（増加・好転などの回答の割合）－（減少・悪化などの回答割合）
業況・採算：（好転）－（悪化）
売上：（増加）－（減少）

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-40.7	-39.1	-100.0	-33.3	-42.9	-100.0	-20.0	33.3	-20.0	0.0	-60.0	-60.0	-33.3	-50.0
売上高	-40.0	-44.0	-33.3	-60.0	-42.9	-100.0	0.0	33.3	-20.0	0.0	-60.0	-42.9	-100.0	-100.0
採算	-73.3	-80.0	-60.0	-100.0	-60.0	-100.0	-50.0	0.0	-100.0	-60.0	-66.7	-100.0	-100.0	-100.0
仕入単価	-95.5	-95.0	-75.0	-66.7	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
従業員	91.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	33.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
設備	60.0	55.6	100.0	0.0	60.0	60.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-100.0	-100.0
資金繰り	-86.7	-86.7	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-33.3	-33.3

※前年比…2023年4月～6月と前年同月の比　見通し…今後3ヶ月（2023年7月～9月）の見通し

【建設業】

前回の調査に比べて業況DI、売上高DI、採算DIのマイナス幅は縮小（改善）している。仕入単価DI、資金繰りDIは▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しは売上高DIのマイナス幅が縮小（改善）、採算DIはマイナス幅が拡大（悪化）して▲100%（全事業者が悪いと回答）する見込み。

地域の受注がうまく取り込めないと報告有。

【運輸業】

前回の調査に比べて業況DI、資金繰りDIのマイナス幅は縮小（改善）している。売上高DI、採算DI、仕入単価DI、設備DIは▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しは業況DIのマイナス幅が拡大（悪化）する見通し。売上高DI、採算DI、仕入単価DI、設備DIは引き続き▲100%（全事業者が悪いと回答）。

売上げ拡大は見込まれる予定だが、引き続き人材不足の課題があるとの報告有り。

･･･●●● 会員の声 ●●●･･･

【卸・小売業】
◇コロナ5類になって大会等が通常通り戻ってきた。3年間ゆっくりしていたので忙しく感じる。
◇旅行需要などの回復で個人消費伸びているようですが生活関連の消費については今一つだと思います。

【製造業】
◇最大顧客のステンレス業界の低迷の影響と電力単価の大幅上昇、が収益を圧迫している。

【サービス業】
◇物価高の影響で去年に比べお客様減。夏は繁忙期なので売り上げは上がるが去年ほどではない。
◇コロナをきっかけに悪化している。なかなか先行きが困難。
◇コロナで客足減少。

【飲食・宿泊業】
◇今年は各地で祭りがあるので、売上が上がる見込み。
◇夏祭りも今年は開催されるということで、景気がコロナ前に戻ることを期待する。
◇仕入れるもの、ほとんどの価格が上がっています。最低賃金も上がるし、その中で利益を上げるのはたいへんです。人手不足!!

【建設業】
◇地域経済が直面している問題点として、公共事業に地域の企業が参入できていないという事です。地元の企業に利益が生まれるはずがありません。

【運輸業】
◇主要顧客の事業が活況であり受託業務の拡大が見込まれるが安定的なサービスを継続していくための人手が不足しており不安がつきまとっている。更には、カーボンニュートラルが推進されていくことによる物流サービスの転換期にも入り始め、時代の潮流に遅れをとらないように全社一気にとなって各種の取り組みを推進していかなければならない。
◇物価高騰の為、収益悪化。